

# 令和7年度 学校目標

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	○幼稚部から高等部にかけた系統立てた指導の実施により、社会で豊かに生きていくための基礎学力とコミュニケーション力を身につける。	①カリキュラムマネジメントを推進し、学部間の連続した系統性のある指導を実践して基礎学力やコミュニケーション力の向上を図る。  ②一人一台端末を活用して視覚的支援を充実させるとともに、専門性を活かした教材の工夫により、個々の発達段階と課題に応じた効果的な指導を実践する。	①個別教育計画の作成と年間指導計画の整理を行い、ねらいと手立て、評価を明確にした指導と評価の一体化を図る。  他学部の研究授業や公開授業への参加を通して、系統的な指導の理解を深める。  ②学校全体でICT機器の利活用を積極的に取り入れ、視覚的支援を行うことでわかりやすい授業を実践する。  ICT機器の効果的な利活用に向けた情報の共有や研修を推進する。	①個別教育計画に基づき、適切な目標設定と手立てによって効果的な指導につながられたか。  研究授業や公開授業への参加を通して、学部間の系統性を意識するとともに授業力を向上させることができたか。  ②一人一台端末の活用に係る情報の共有や研修を実施し、ICT機器の効果的な利活用を図ることができたか。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	○それぞれの実態を十分把握し、ニーズに応じた指導・支援を行うとともに、集団活動を通して、協調性や思いやりの心を養い、自己肯定感を高める。	①幼児・児童・生徒の健康と安全を守り、一人ひとりのニーズに応じた教育活動を推進する。  ②校内外の様々な集団活動を通して互いの良さを認め合い、自他を大切にする人権に配慮した指導を進める。	①学部・学年会及びケース会等を通して情報共有を図り、支援方法について専門職を含めたチームで検討し支援を行う。  ②様々な縦割り集団の対話的な活動を通して、相互理解を図るとともに、協調性や思いやりを育む支援を行う。	①幼児・児童・生徒の見立てに基づく支援を行い、健康と安全を守ることができたか。  ②様々な集団活動を通して互いの良さを認め合い、相互理解を深める教育活動を実践できたか。  幼児・児童・生徒の協調性や思いやりの心を養うことができたか。
3	進路指導・支援	○幼児・児童・生徒・保護者のニーズを受け止め、職業観を育み、主体的な進路選択ができるよう指導・支援する。	①幼稚部から高等部の各段階において、個の適性やニーズに応じた課題設定や体験的な学習を通して、主体的な進路選択につなげる。  ②主体的な進路選択に必要な情報発信の充実を図り、ニーズに応じた支援を行う。	①各発達段階において、将来の進路選択につながる具体的な視点を設定し、見学会や実習等の体験的な学習を積極的に推進する。  「卒業生の話を聞く会」を継続して設定し、生徒自らの将来像をイメージしやすくする。  ②進路だよりや学校ホームページ等を通して、学習会や見学会等の情報を保護者に発信し、より良い進路選択につなげる。	①各発達段階において、将来の進路選択につながる具体的な視点を設定するとともに、体験的な学習を通して、主体的な進路選択に向けた意欲を育むことができたか。  ②保護者への情報発信を通して、連携して進路支援に取り組むことができたか。
4	地域等との協働	○「ともに生きる社会」の実現に向け、地域における支援教育に関する専門性の向上を図るとともに、地域との協働による活動を進める。	①関係機関と連携し、支援の方向性を共有して教育活動に活かしていく。  ②センター的機能を発揮し、地域への情報発信を充実させてニーズに応じた支援を提供する。  ③交流及び共同学習等、学校外の人との活動を通してコミュニケーション能力を高め、相互理解を図る。	①病院や福祉機関等との情報交換を計画的に推進し、支援ニーズの把握や支援策を共有していく。  ②学校や市町村教育委員会とも連携し、地域で学ぶろう難聴児の支援につながる情報を発信していく。  ③近隣の学校や地域の団体、施設等との交流及び共同学習を通して、人と関わる機会を積極的に設定し相互理解を深める。	①関係機関と情報交換を計画的に行い、ニーズに応じた支援を推進することができたか。  ②センター的機能を発揮し、地域で学ぶろう難聴児の支援につながる情報発信ができたか。  ③各学部のねらいや個々のニーズに応じた交流及び共同学習の機会を通してコミュニケーション能力を高め、相互理解を深めることができたか。
5	学校管理 学校運営	○安全で安心できる指導・管理体制の整備を進め、学校の危機管理能力を高める。  ○教員のワークライフバランスを推進するためには、教員の働き方改革を推進する。	①防災・防犯体制の強化を推進し、対応マニュアルの整備や実効性のある訓練を通して、教職員の危機管理意識の向上を図る。  ②子どもたちと向き合う時間を確保するための方策を検討し、教育活動の質の向上を図る。	①保護者や消防署等、関係機関と連携し、実際に起り得る状況を想定した訓練等を実施する。  ②Teamsの掲示板利用等、会議の効率化や文書の簡素化、業務の統合や廃止によるスクラップアンドビルトを推進する。	①関係機関と連携し、実効性のある訓練をして、教職員の危機管理意識の向上を図ることができたか。  ②子どもたちと向き合う時間を確保することができたか。また、そのことで教育活動の質の向上が図れたか。